雑　感

（教育学部　平成８年卒　塩井実香）

小さい時から読書が好きで、言葉に興味があり、だからと言って国語教師や英語教師、文筆業、文学研究などは自分には向いていない気がして、進むべき方向について思案中だった高校生の頃。母語である日本語を一つの言語として客観的にとらえる「日本語学」という分野や、非母語話者に日本語を教える「日本語教師」という仕事を知り、そういった分野が学べる大学を探す中で、当時香川大学教育学部にあった「総合科学課程言語文化コース」を知り、入学しました。

大学に入ったらしたいことが「一人暮らし、サークル、アルバイト、車の免許取得」で（どれも早々に達成)、「勉強」は入っていなかった私ですが、卒業後は大学院に進学し、幸いにも母校で教員として採用いただけました。結果から顧みると、学生時代に勉強もそれなりに頑張っていたのかなと思いますが、同時に、もし今 18 歳に戻れたら、もっともっとしっかり勉強や経験を重ねたのになという思いもあります。その反省も踏まえ、微力ながら母校に恩返しをすべく、日本語教師として日々外国人留学生に日本語を教えつつ、その学生たちからさまざまな文化や価値観を教わる日々です。

何年か前に、この分野に足を踏み入れて以降出会った留学生や友人・知人の出身国・地域を数えてみたことがあるのですが、その時点で 40 でした。今は、コロナ禍ではあるものの、計 45 ぐらいになっていると思います。日本一小さな県にいながらたくさんの留学生と会え、刺激を受けながら国際交流の一端に携われるのは本当に幸せなことです。

勉強を頑張るぞと思って入学したわけではなかったものの、振り返るとやはりいろいろな学問的、経験的な基礎は大学時代に得ていたと思います。高校まではなかった心理学、行動科学、情報科学などの科目は非常に新鮮でしたし、せっかく教育学部に入ったのだからと取得を目指した中学・高校の国語の免許も、古典講読や教育実習は大変でしたが、先輩の授業を見学して感銘を受けたこと、一生懸命教材分析をし教案を書いて教壇に立った経験などは、今でも折々で思い出し、活力になっています。もちろん、言語学、日本語学、日本語教育学等の授業はとても興味深く、楽しく学ぶことができました。

そして、改めて思うのは、自分は香川が好きだということです。縁もゆかりもない香川で大学生活を始め、サークルやアルバイトを通じて人間関係を広げ、経験を重ね、お接待文化の根付く、気候も人の心もあたたかい香川が大好きになり、今では地元で過ごした日々より香川での生活のほうが長くなりました。先生方、先輩方が築いてこられた道を歩みながら、後に続く後輩や学生たちにも少しでも心に残る学びや今後の人生の参考になるものを示してあげられたらと思っています。

キャンパス内の様相も学生時代とは少し変わってきていますし、教育学部の目指すべき方向性や地方大学の存在意義も、おそらく当時と全く同じではないと思います。「ゆく川の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。……」という方丈記の一節が思い浮かびますが、これからも現状に甘んじることなく、この地で自分にできること、しなければならないことを見つけて進んでいく所存です。どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。